



紀伊半島大水害時の最高水位を計測

内を歩き、海拔20m以上で避難できそうな場所には目印として赤い旗を揚げました。

「防災、みんな真面目に訓練！」これでは続かないと思い、「楽しむ」をモットーに、高齢者や子育て世代が参加しやすい、子供達を巻き込んだ企画を考えました。それが「防災チャレンジ大運動会」。

備蓄に必要な物を親子で見つける「借り物競争」、ビニール袋で作った雨具を着て高齢者による「ファッションショー」、必要な支援物資を伝える「ジェスチャークイズ」などみんなで楽しみました。

ペットボトルでランタン作り、ブルーシートで寝袋作り、防災ディナーショーも行いました。また、南海トラフ巨大地震に備え、避難場所を見つけるタウンウォッチングにも取り組みました。

2014年度、紀宝町が全国で初めて、災害に備えた事前防災行動計画「タイムライン」を導入。豪雨や台風災害を想定し、命を守るために取るべき行動を「いつ」「誰が」「何を」という視点で時間軸に整理したものです。2015年7月の台風には、タイムラインにより、津本地区で33世帯61人が早めの避難をしました。この後も「空振り」を恐れず、高齢者を



防災チャレンジ大運動会

中心に早め早めの避難を心がけるようになりました。

コロナ禍では、避難所の在り方を模索。防災センターの一室に簡易個室を用意しました。密接を避け、プライバシーの配慮に気を配り、風通しの良いカーテンで間仕切り。授乳室も設け、誰もが使いやすい施設を目指しました。

避難時に混雑しないよう、駐車場で車中泊の訓練も行いました。家族連れは「プライバシーも保てるし、気を使わずに夜を過ごせた」と話し、安全な場所での車中避難も選択肢の一つだと判りました。

3 これからの私たち

大水害から10年以上が経ち、記憶はいずれ薄れていきます。「風化させない」ように、大人から子供へ語りつぎ「何よりも命が大事」を合言葉に、自分の命を自分で守るため、地域の宝である子供達の笑顔を守るため、これからも“楽しい防災”を継続して行きたいと考えています。

4 受賞しました

「みえの防災奨励賞」「みえの防災特別賞」
「みえの防災大賞」「防災まちづくり大賞」